

令和7年度 学校評価（分掌等）

1 分掌

①総務・②教務・③生徒指導・④進路指導・⑤保健・⑥特別活動・⑦研修

2 委員会

⑧教育課程検討・⑨探求・⑩校内LAN運用管理・⑪修学旅行検討・⑫支援・
⑬いじめ防止

3 学年部

⑭1年・⑮2年・⑯3年・⑰4年

4 教科

⑱国語・⑲地歴公民・⑳数学・㉑理科・㉒保健体育・㉓芸術・㉔英語・
㉕家庭・㉖情報・㉗商業・㉘地球環境・㉙キャリア教育

令和7年度

総務部

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	1 定時制課程危機管理マニュアルの確認・見直しを継続する。 2 P T A・教育振興会・関係諸機関との連携を密にし、教育環境の整備充実と活性化に努める。 ----- <手立て> 1 災害安全指導者研修会等での県内外の小中高校の情報収集と講演会の内容を通して最新の防災情報をまとめる。また校内安全点検の記述内容に基づく点検を行う。 2 教育振興会・PTA会報の紙面の刷新を図る。また、教育振興会・PTA予算で教育環境を適切に整備する。	P	
実施状況・達成状況	1 昨年度改訂した危機管理マニュアルの「熊等野生動物被害防止」の項目を点検を継続して行っている。来年度以降も追加項目が必要かどうか検討していきたい。 2 会報の紙面刷新については、今年度の学校行事や進路情報を掲載し、振興会・PTAの方に生徒の学校生活がより伝わる紙面を目指した。	D	
成果と課題	1 たまたま本校では熊の出没は無いが、周辺地域では目撃されており、職員の出勤途中の道路での目撃もある。春先にはかもしかが定時制棟周辺を歩いている姿も見られている。今後も生徒、職員に熊等野生動物の被害がないように危機管理体制を周知していきたい。	評価	C
	2 教育振興会・PTA会報は卒業記念号として年1回の発行しているが、印刷会社に依頼せずに学校の印刷物として2学期末に行事の紹介特集号などを発行できないかと考えている。	B (A~Dで)	
次年度への提言	職員会議資料のデジタル配付は職員に不評で年度初め、4月定例職員会議の資料配付だけで今年度は2回で中止にした。年度初めの職員会議資料はページ数が膨大で資料準備、印刷の手間がかかるため、今後も工夫していきたい。 縁日などの学校行事への教育振興会会員の招待で学校の様子を知ってもらうことを継続し、地域の教育資源として会員のみなさんからご協力いただける学校行事を検討していきたい。	A	

令和7年度

教務部

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<ol style="list-style-type: none">校務支援システムの安定した運用を行う。観点別評価の改善を図る。成績処理や入試業務をミスなく円滑に遂行する。 <p>-----</p> <p><手立て></p> <ol style="list-style-type: none">以前使用していた成績処理の仕組みをバックアップとして、新しい校務支援システムを積極的に活用する。観点別評価方法についての情報提供や研修を行い、理解を進める。WEB出願について着実に習熟する。 実施要領の作成を早い時期から行う。	P	
実施状況・達成状況	<ol style="list-style-type: none">新しい校務支援システムを活用し、1学期期末から通知票をスマートフォンなどに送信できるようになった。教務内規を変更し、観点別評価の比率をできるだけ均等にするようにした。WEB出願の研修を通して、テスト出願をすることができた。 これまでの実施要領に対応するようマニュアルを作成中である。	D	
成果と課題	<ol style="list-style-type: none">出欠に関する入力処理のミスが減り、確認作業が楽になった。通知票をオンラインで送れるようになり、発送作業の省力化ができた。バックアップのデータ作成に手間がかかっている。観点別評価の比率に関する共通理解をもつことができたが、情報提供や研修については実施できなかった。「知識・技能」の比率がこれまでより下がり、観点別評価の実施方法については引き続き検討していく必要がある。WEB出願によって、作業の省力化が見込まれる。「承認」の作業が多少、手間である。	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	<ul style="list-style-type: none">校務支援システムについて、バックアップを必要としないくらい習熟したい。他の職員もシステムに関われるようにマニュアルを作成したい。観点別評価については、評価の方法やそれぞれの観点内の配分について各先生方のデータをもとに検証を続け、情報共有したい。WEB出願について習熟を図り、スムーズな運営ができるようにマニュアルを修正したい。	A	

令和7年度

生徒指導部

本荘高等学校定時制課程

今年重点目標	1 「定時の心得」の検討・整備を図る。 2 安心安全な学校生活を送れるように生徒の自主性・自律性を伸ばす。 ----- <手立て> 1 各方面からの情報収集及び生徒会、職員からの意見を集約し生徒指導部内規をもとに検討し、完成を目指したい。 2 非行、事故の未然防止と問題行動発生時の適切な対応。職員打合せでの学年からの連絡、学校生活調査の情報共有を徹底していきたい。	P	
実施状況・達成状況	1 六高校から情報収集しながら、「定時の心得」「定時制ガイダンス資料」「長期休業中の心得」等の内容を、確認しながら活用できた1年であった。定時制独自の部分は変更せずに検討してきた。 2 生徒に関する情報交換や、長期休業中における注意などを行い、問題行動等の生徒事故は発生していないが、これまで印刷物で届けていた通信を、「すぐーる」でデータの送付になったため確実に保護者の手元には届いている。	D	
成果と課題	1 不具合を確認した時点で、内規等の範囲内で修正で対応した。諸届けの一部修正などは行ったが、「定時の心得」改訂作業には取り掛かれていない。 2 停学を伴う生徒事故は発生しなかったが、個別にみれば整容面や、生活面での問題が見られた。	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	・問題行動は発生していないものの、いつ起こるか予測できない。そのため、日頃から防止のための指導を繰り返し行うとともに、校内規定等を確認し、生徒の自覚を育て、防止の手立てとしていく。 ・交通関係では、自転車利用者に対する「ヘルメット着用義務」、「反則切符制度の導入」について、関係機関と情報交換しながら生徒の理解を進めていく。 ・「定時の心得」改訂作業は、整容等に関する、見直しを含めた検討を行い意見を集約しながら対応する。	A	

令和7年度

進路指導部

本荘高等学校定時制課程

<p>今年度重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 卒業予定者全員の進路を決定する。 2 新様式になる就職用調査書と履歴書の作成方法を確立する。 3 進路行事を効果的に実施する。 <p>-----</p> <p><手立て></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 朝礼や職員会議で情報の共有を図り、進路希望に応じて必要な支援をする。 2 校内LAN委員会や教務部と連携し、「調査書・推薦書作成要領」を改訂して記入方法をわかりやすく示す。 3 進路行事を総合的な探究の時間やLHRなどの計画に盛り込むよう学年に働きかけ、事前・事後指導を充実させる。 	<p>P</p>
<p>実施状況・達成状況</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 12月末現在、進学の達成率は100%、就職の達成率は83.3%である。 2 今年度から就職用の調査書と履歴書の様式が変更となったが、校内LAN委員会や教務部と連携して作成方法を確認しながら進めることができ、大きな混乱はなかった。また、パソコンによる履歴書作成を可とする企業が大部分となったため、作成にかかる時間を短縮できた。一方で、清書に時間がかからないという油断があったせいか、なかなか下書きが完成しない生徒もいた。 3 卒業生講話で、一昨年度から交渉していた方に来ていただくことができた。 	<p>D</p>
<p>成果と課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 国公立大学に学校推薦型選抜で1名合格した。本校ではまれなことで、この経験を今後に生かしたい。 2 履歴書をパソコンで作成できることで労力軽減となったが、例年より下書き完成が遅くなる生徒がいた。書類完成までのスケジュールを明示し、そこから逆算して生徒自身が計画をたてて進められるよう、学年部と連絡を取り合いながら徹底する必要がある。 3 卒業生講話は講師決定に毎年苦勞するが、生徒への刺激が大変大きい。生徒が書いた振り返りシートからは、自分の進路について前向きに考えようとする様子が見られた。 	<p>評価</p> <p>B (A~Dで)</p> <p>C</p>
<p>次年度への提言</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度同様、6月に拡大進路部会（3・4年部と合同）を開き、情報共有を図る。いつ何をすべきかを徹底する。 ・各学年に1名ずつ進路指導部員をつけてほしい。 	<p>A</p>

令和7年度

保健部

本荘高等学校定時制課程

今重点目標	<p>1 自分の健康状態を把握し、生活習慣の改善や受診ができるよう支援する。</p> <p>2 肯定的なかかわりの中で、支援を求める力や支え合う姿勢を育む。</p> <p>-----</p> <p><手立て></p> <p>1 健康診断結果を昨年度と比較した形で返却する。</p> <p>2 長期休業前の集会や保健講話で、健康課題に即した内容を取り上げる。</p> <p>3 受容的、共感的に傾聴し、生徒理解に基づいた支援の在り方を考える。</p> <p>4 他分掌と連携し、コミュニケーション能力や援助希求態度が育つような学習場面を考える。</p>	P	
実施状況・達成状況	<p>1 BMIや視力、歯科については、前年度と比較し、振り返りができるようにして結果を配付した。精密検査未受診の生徒には、個別に話し、保護者面談の際にも担任から受診勧告をしてもらった。保健講話では、生活習慣やがん検診、精密検査が大切であると感じた生徒が多かったが、精密検査受診率にはそれほど結びついていない。</p> <p>2 体調不良の他、集団での活動が苦手な生徒の保健室利用が複数回あった。どんな気持ちか、何でつまづいているか、どんな方法ならできるか等、会話や普段の様子からアセスメントしたことを支援に生かせるよう、関係職員と連携した。コグトレでは、生徒の実態に近いケースを設定してSSTに取り組んでもらった。</p>	D	
成果と課題	<p>1 精密検査受診率は44.4%（27項目中、12項目受診済み）で、令和5年（11%）、令和6年（24.3%）と比較すると増えているが、半数に満たなかった。また、低体重の生徒の割合が増加し、37.5%であった。すぐには行動変容に結びつかない場合もあるが、思考力・判断力を養うための保健教育を今後も計画していく必要がある。</p> <p>2 生徒の困り感を共有したり、解決のための話し合いができるよう、丁寧な聞き取りや受容的な姿勢を心がけた。援助希求態度を育むために、気持ちや考えを否定されない経験や、穏やかに相談する経験が、今後も継続して必要である。</p>	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	<p>1 生徒の実態が変わってきたことを踏まえ、毎年全学年に行っていた性教育講座を3年に1回にし、心の健康に関する講座やSOSの出し方講座等を取り入れていきたい。</p> <p>2 栄養面や体力面に課題のある生徒が見受けられる。特別活動部等と連携し、縦割り活動や全校行事で関連した取組ができるとよい。</p>	A	

令和7年度

特別活動部

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	1 よりよい人間関係づくりのために、コミュニケーション能力の育成を継続させる。 2 自己実現のため社会的自立に必要な能力の育成を目指す。 ----- <手立て> 1 縦割り活動や学校行事において、他学年との交流の中で役割分担を行い、集団活動に積極的に貢献できるようにする。 2 各学期や行事毎にキャリアパスポートをまとめる時間を設定し、自己理解に努め、生徒自身が今後の見通しを持てるようにする。	P	
実施状況・達成状況	1 縦割り活動は、前半6回、後半6回でグループのメンバーを統一し、実践的な活動を多く取り入れた。学校行事では、役割を遂行するためコミュニケーションが必要な場면을繰り返し設定することができた。 2 各学年でキャリアパスポート等を用いて振り返りの時間を設定し、次の活動への意欲や目標設定の必要性を促すことができた。	D	
成果と課題	1 縦割り活動では各回で職員間での議論がなされ内容の濃い活動が実施できたが、活動時間の設定に課題が残った。学校行事では、岩城遠足や球技大会など班やチームでの関わりが増えたことで生徒間の協力が必須になり、それに伴いコミュニケーション能力も向上した。 2 キャリア・パスポートは各学年で有効活用できていた。呼びかけ不足もあり、各学年の進捗に差が出てしまった。	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	・今年度同様、縦割り活動や学校行事の内容については、全体で共有できるようにする。 ・各活動において、教員が行うべき行程と生徒が行える活動を精査し、多くの生徒が有意義な役割を担えるようにする。 ・キャリア・パスポートの生徒が記入した内容を、項目ごとに整理し、傾向等を分析し、次の学校行事や次年度に反映できるようにする。 ・各活動の計画の段階から支援委員会と連携し、生徒の実態に応じた活動を実施する。	A	

令和7年度

研修部

本荘高等学校定時制課程

<p>今年度重点目標</p>	<p>1 研修の機会を整備し、教員としての資質を高める。 2 授業に関する情報の収集や発信を通して、授業の改善に生かす。</p> <hr/> <p><手立て> 1 年2回の授業参観週間や校内授業研究会を実施する。 他の分掌や、校内LAN運用管理委員会との連携を密にする。 2 授業アンケートの内容を検討し、実施する。 ICT機器の利活用に関する情報を発信する。</p>	<p>P</p>	
<p>実施状況・達成状況</p>	<p>1 相互授業参観の開催期間を10日程度確保し、今年度も「授業参観旬間」として6月と11月の2回実施した。昨年度まで4～5月に実施していた1回目を、新年度の授業が軌道に乗った時期を考慮し時期を遅らせた。各回、各教員が概ね2時間程度の授業を参観した。研究授業の実施はなかったが、模擬授業をもとに授業の検討が行われた。 2 授業アンケートを7月と12月の2回実施した。集計結果を直ちに確認できるよう、担当者の授業時間内で実施し、即日授業単位で集計する流れだが、欠席者で回答がそろわず時間を要した科目もあった。特別な機会を設けての情報発信はなかったが、職員間でのICT機器の利活用に関する日常的な情報共有は行われている。</p>	<p>D</p>	
<p>成果と課題</p>	<p>1 授業参観、授業アンケートとも、担当者への結果のフィードバックを早めることで、授業改善の効率を高めている。 2 授業改善重点事項に沿った質問を加えることで、自身の達成状況が各自で確認しやすくなっている。 現状でICT機器の利活用は十分に行われ、また授業参観等を通じ、教員間での情報共有も図られていると考える。一方、校務処理の電子化が進んでおり、新たなシステムが加わるごとに操作等の習熟が必要になる。</p>	<p>評価 B (A～Dで)</p>	<p>C</p>
<p>次年度への提言</p>	<ul style="list-style-type: none"> 他教科の授業参観の機会は、同一教科の教員がほぼ1人の本校において依然大きな意味を持つ。授業改善に生かす上で、参観の感想やアンケートの集計結果の迅速な提供は有用で、引き続き進めて行くべきである。 校務支援システムやすぐーるなどICTを取り入れた業務の比重が高まり、さらに広がっていくと予想される。スムーズな移行や効率的な利活用のために、他の分掌や校内LAN運用管理委員会とより一層の連携を図り、実演・演習を取り入れた研修会を企画するなど、習熟に努める。 	<p>A</p>	

令和7年度

教育課程検討委員会

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	1 新教育課程における指導内容を深める。 2 学校設定教科・科目を中心に教育課程の見直しや確認を進める。 ----- <手立て> 1 新教育課程になった4年生を中心に指導内容の検討を行う。 2 教育課程表の検討を継続的に行う。	P	
実施状況・達成状況	1 4年生の教育課程について、現代社会から政治・経済に変更し、地学基礎を追加し、地域科学と地域社会をなくした。その他の科目については新課程として問題なく運用できている。 2 4年生の「スポーツⅡ」については、令和10年度には「体育」に変更予定である。 「学修B」を教育課程の科目に入れることは検討したい。	D	
成果と課題	1 1～4年生の全学年で新教育課程となった。現在のところ、特別、問題は起きていないが、今後も検討を続けたい。 2 本校に「実務代替」という制度があり、アルバイトを所定の日数行うと商業科目に増単できるのだが、1年生では商業科目を開設していないため、「学修B」を教育課程の科目として加えることを検討したい。	評価 B (A～Dで)	C
次年度への提言	・全学年で新課程になり、安定した運営ができていると思われるが、細かな点についても意見を募り、修正を検討していきたい。 ・県内の他の定時制や他県の定時制の教育課程についても参考にして、よりよい改善に取り組みたい。	A	

令和7年度

探究委員会

本荘高等学校定時制課程

今年重点目標	<ol style="list-style-type: none">各学年と協力し、総合的な探究の時間の充実を図る。自己実現のための見通しをたてる能力の育成を目指す。 <p>-----</p> <p><手立て></p> <ol style="list-style-type: none">全学年での総合的な探究の時間の成果発表会を計画・実施する。課題研究の成果を発表・共有することで、生徒の自己表現と他者理解の場面を設定する。総合的な探究の時間のあり方や職員の関わり方を見直し、次年度にむけて計画する。職場見学、インターンシップなどの進路活動と合わせて、生徒が自分の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくことができるよう、職員全体で指導する。	P	
実施・達成状況	<ol style="list-style-type: none">1月に全学年での総探発表会を実施した。1年生は「職業」、2年生は「社会課題」、3年生は「自由テーマ」で課題研究を進めた成果をスライドを用いたプレゼンテーション方式で発表した。4年生にも聴講してもらい、後輩の発表に対して感想を述べてもらった。総探発表会は当日発表を予定した22名のうち、10名が欠席した。	D	
成果と課題	<ol style="list-style-type: none">先生方と協力のもと、総探発表会を実施することができた。生徒の中には事前に台本を準備する姿や、自主的にリハーサルを行う姿など、生徒が自ら考えて行動する様子が見られた。発表した生徒の事後アンケートからは課題研究や発表会を肯定的にとらえる内容の記述が見られた。他の生徒の発表を見ることで自身の発表をふりかえり、次年度にむけての意欲が感じられる感想が多かった。当日欠席した生徒は、課題研究が見通しをもって進められていなかったり、注目されることが苦手だったりと様々な要因が考えられる。次年度の発表会では欠席者を減らし、多くの生徒が成果を発表できるような手立てが必要である。	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	<ol style="list-style-type: none">総探発表会の継続。課題研究を計画的に進めてもらえるように引き続き担任の先生方と連携する。年度初めに1～3年生向け総探ガイダンスを実施する。各学年での中間発表の実施。1月の総探発表会前にクラスメイトの前で発表の練習をする機会を設けてもらう。生徒に合った発表の仕方を考える。例) リモートでの発表	A	

令和7年度

校内LAN運用管理委員会

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<p>1 校内LANの安定した運用を行う。 2 各分掌と連携し、教員ポータル・賢者・すぐーの利活用を進める。 3 図書コーナーの利用の促進と管理を行う。</p> <hr/> <p><手立て> 1 接続状況を定期的に確認し、全日制の担当者と連携して運用する。 2 教務部や研修部と連携し、ソフトウェアの利活用情報や、ソフトウェア更新に関わる情報収集（機能改善に関わる連絡含む）や紹介を行う。 3 新規購入図書の紹介を行うなど、図書利用の呼びかけを行う。</p>	P	
実施状況・達成状況	<p>1 システムの稼働状況については、雷が原因と思われる通信停止があった。また、突然一部に接続不良があったが、原因は不明である。 2 OSのアップデートが夏季休業中に行うよう指示があったが、手順や所用時間の確認、トラブル等に関して対応した。 3 図書に割り当てられている予算がないため、今年度は新規購入は行っていない</p>	D	
成果と課題	<p>1 システムはほぼ問題は無かったが、起動時の遅さや、ソフトウェア起動の際のタイムロスが多すぎて、業務に支障が出ている。 2 全教員のPCがWindows11にアップグレードされたが、OSのアップデートの後、Windows11自体のアップデートを実施すると、業務が1日停止してしまった。</p>	評価	C
次年度への提言	<p>来年（2027年2月）に教員が使用するPCの更新を迎えるため、機器の更新の際、スペックの改善を機会を捉えて声をあげる。 また、BYODについて、情報を収集し、本荘高校定時制としての対応について、早い時期に確定させ、準備を進める。</p>	B (A~Dで)	A

令和7年度

修学旅行検討委員会

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	1 本校における修学旅行の在り方について検討する。 2 次年度の修学旅行について、早期の計画立案を目指す。 ----- <手立て> 1 今年度実施の修学旅行（関西方面）や昨年度の修学旅行（東京方面）等の成果を確かめ、次年度以降の検討に生かす。 2 生徒・保護者にアンケートを実施した上で、行き先や活動などを検討し、修学旅行の具体的な行程を作成する。	P	
実施状況・達成状況	1 今年度実施した関西方面への修学旅行では、3年生8名全員が参加でき、大きなトラブルもなく遂行することができた。 2 来年度の修学旅行に関しては、アンケートを実施し、北海道への旅行を計画中である。	D	
成果と課題	1 関西万博を見物するなど有意義な機会となった。料金の制約上、2泊3日としているが、関西方面であれば、3泊4日としたいところではある。 2 人数が少ないので、大手の旅行会社に見積もりの作成を断られている状態である。	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	・旅行代金が高騰しており、行き先や徴収額について、毎年、検討をしなければいけない。	A	

令和7年度

支援委員会

本荘高等学校定時制課程

<p>今年重点目標</p>	<p>1 生徒の自己理解を促す活動を充実させる。 2 生徒理解・相談活動に関する研修を行う。 3 外部機関と連携して、組織としての支援を充実させる。</p> <hr/> <p><手立て> 1 教員との面談や、ソーシャルスキルトレーニング等、支援が必要な生徒への個別の支援を継続して行うことで、生徒が得意なこと、苦手なこと等を自覚し、自己理解を深めるとともに自己肯定感を高める。 2 教育専門監等と事例検討会を実施し、生徒支援につなげる。 3 高等学校特別支援チーム、外部関係機関と連携し、効果的な支援を行う。</p>	<p>P</p>	
<p>実施状況・達成状況</p>	<p>1 学習・生活に関するアンケート（新入生・転入生）、エゴグラム（1年生・SCから解説）、ソーシャルスキルの自己チェック（縦割り活動）、自己肯定感の自己チェック（ライフスタイル調査）等を行い、生徒が自分自身を振り返る機会を設けた。教員にとっては生徒の実態把握をする機会となった。 また、コグトレウィークでソーシャルスキルのワークを取り入れた。</p> <p>2 第1回支援委員会で各学年のケース検討を行い、SCから指導助言をいただいた。</p> <p>3 第2回支援委員会では、事前に高等学校特別支援チームに授業参観をしてもらい、ケース検討とUDに関する研修を行った。</p>	<p>D</p>	
<p>成果と課題</p>	<p>1 中学校からの引き継ぎや入学時の調査等で、ある程度の実態把握は行ったが、個別の教育支援計画が入学時に引き継がれないケースがあった。気になる生徒については早めに保護者と面談をするなど、支援が途切れないような進め方が必要である。</p> <p>2 授業のUD化については、定時制課程全体で取り組む必要がある。また、個別の支援を必要とする生徒への具体的な手立を実践していくためには、職員の理解と定期的なケース検討が必要である。</p>	<p>評価 B (A~Dで)</p>	<p>C</p>
<p>次年度への提言</p>	<p>1 中学校からの個別の教育支援計画が確実に引き継がれるよう、今後も合格通知を送付する際、中学校長宛に引継ぎの依頼文書を同封する。また、気になる生徒については、早めに保護者面談を実施する。</p> <p>2 個別の教育支援計画の作成や具体的な手立ての検討については、高等学校特別支援チームへ相談しながら進める。</p> <p>3 個別の支援の対象となる生徒以外にも、学習の空白やつまづきのある生徒が見受けられるため、授業のUD化に取り組む。</p>	<p>A</p>	

令和7年度

いじめ防止委員会

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<p>1 すべての職員がいじめ問題の重要性を認識する。</p> <p>2 定期的にいじめ防止に向けた取組を実施する。</p> <p>3 生徒の様子に係る情報を共有するとともに、組織としての支援を充実させる。</p> <p>-----</p> <p><手立て></p> <p>1 校内研修や具体的な事例紹介等を通して、いじめに関する共通理解を深め、対応力を高める。</p> <p>2 いじめアンケートを年3回実施して状況を把握するとともに、各分掌や外部機関との連携により、効果的な取組を検討、実施する。</p> <p>3 教育相談やカウンセリング等あらゆる機会を捉えて情報収集に努めるとともに、報告、連絡、相談により組織として対応する。</p>	P	
実施状況・達成状況	<p>1 保護者面談、アンケート調査、学校生活調査等、様々な手立てにより、生徒の情報収集や兆候の把握に努めた。</p> <p>2 県教委による「いじめに関するアンケート調査」や生徒指導部が実施した年2回の学校生活調査によると、いじめ事案やその兆候等は見られなかった。</p> <p>3 毎週水曜日に生徒情報を共有する機会があり、組織として対応できる体制になっている。</p>	D	
成果と課題	<p>1・2 いじめ事案や兆候は見られなかった。今後は生徒会活動等を通してのいじめ防止活動ができないか検討したい。</p> <p>3 年間を通してコミュニケーションやソーシャルスキル能力が向上した生徒が多かった。</p>	評価	C
次年度への提言	<p>1・2 いじめに関する研修等の充実</p> <p>3 いじめ発生時に組織的な対応ができるような指導体制を維持していく。</p>	B (A~Dで)	A

令和7年度			1年部		本荘高等学校定時制課程
今年度重点目標	1 ソーシャルスキルやコミュニケーション能力を向上させる。 2 他者との関わりをとおして自己理解を深めさせる。 3 将来について具体的に考えさせ、目標に向けて努力する態度を養う。		P		
	<手立て> 1 LHRや学校行事、縦割り活動等をとおして、集団内での振る舞い方を学び、より良い人間関係を築けるようにする。 2 視点を変えて考えたり、他者からの意見を聞いたりする活動を増やし、表現活動を充実させる。 3 多様な進路について学ぶ機会を与えるとともに、今何ができるかを考えさせ目標をもたせる。				
実施状況・達成状況	1 日常的な声かけやミニ面談を行い、生徒同士のスムーズなコミュニケーションのきっかけ作りを心がけた。挨拶やマナーについて、生活の中で話をしながら身に付けさせるようにした。 2 LHRや総探の時間を使って、自分の意見や体験を話す活動を、意識的に多く取り入れた。縦割り活動や学校行事には積極的に参加していたが、他学年と一緒に活動に苦手意識をもつ生徒もいる。 3 職場見学やふるさと企業紹介事業、2年生によるインターンシップ報告会等を通じて、地元の企業に少しずつ興味をもつようになっている。また、総探では「働く」という大きなテーマを与え、関心のあることについて深く調べ考えさせた。		D		
成果と課題	1 残念ながら年度途中で1名が転学したが、その他の生徒で長期欠席をしている生徒はいない。欠席者の代わりに係の仕事を引き受けたり、日直で忙しい者を手伝ったりなど、助け合う様子が見られる。 2 縦割り活動や学校行事で、先輩から声をかけられたり一緒に行動したりすることが嬉しそうで、自信につながっている。一方で、集団が苦手な生徒もおり、今後どう対応すべきかは課題である。 3 少しずつ自分の進路について考え始めてはいるが、まだまだ知識が足りない。来年度以降も継続して指導していく。		評価	C	
			B (A~Dで)		
次年度への提言	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップに向けて、早めの計画 ・進路情報の提供と、進路について考える機会の充実 ・集団が苦手な生徒への対応 ・修学旅行の検討 			A	

令和7年度

2年部

本荘高等学校定時制課程

<p>今年度重点目標</p>	<p>1 学校生活の自律と自立を図り、基本的な生活習慣の確立を目指す。 2 場に応じた意思の伝達とよりよい人間関係を形成する態度を促す。 3 進路目標を明確に、実現のための諸活動に積極的に取り組ませる。</p> <p>----- <手立て> 1 「定時の心得」やクラスでの生活規律を日常的に意識、遵守させる。個人面談や保護者面談を行い、連絡と情報の共有を密にする。 2 日常的な学校生活やLHR、総合的な探究の時間、学校行事の活動を通し、ものごとに協力して取り組む意識とクラスの一体感を高める。 3 キャリアパスポートを活用し、諸活動の成果や将来を見通させる。アルバイトや資格取得などを奨励する。</p>	<p>P</p>
<p>実施状況・達成状況</p>	<p>1 教育相談週間での生徒面談2回、保護者面談週間2回の他、健康観察や声かけ等の日常的な生徒の把握、欠席時の保護者への連絡に努めた。 2 学習課題の解決や探究活動、学校行事の計画などさまざまな場面において、自発的に机を並び替え、相談、協力するなど、集団として、またその一員として積極的に取り組んだ。 3 実施後のキャリアパスポートへの記入の機会が徹底できていないが、計画や情報収集での協議などに協力して取り組み、諸活動に対し積極的・主体的に向き合う姿勢が見られる。 アルバイトへの希望や興味を有する生徒はいるが、体調や通勤・通学手段の制約により、継続中の1名を除いて就労は増えていない。</p>	<p>D</p>
<p>成果と課題</p>	<p>1 多くの生徒は各自のペースをつかんで学校生活に取り組んでいるが、本人の心身の状況に加え家族の送迎手段の制約等から欠席を繰り返す生徒がいる。 2 集団として良くまとまっており、互いにコミュニケーションが取れ、協力したり教え合う姿勢が身についている。学習や探究活動、学校・学級の活動に積極的に取り組んでいる。協調性があり集団で取り組める一方、リーダーシップを担う場面を避けようとする。 3 目前の課題に対する取り組みへの意識の集中度は高い。一方で、先を見通し備えようとする意識に欠ける嫌いがある。</p>	<p>評価 C B (A~Dで)</p>
<p>次年度への提言</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体調の管理や通学等については、生徒と保護者の意思疎通、学校と家庭とより一層の連携を深め、家庭の協力を得る必要がある。また、個々の進路希望に関する情報を本人と家庭に随時提供し、時機を捉えた活動を展開する。 ・生徒の学力の差が大きく、学習意欲の面で不安を抱える者もいるが、互いに助け合う姿勢が顕著で、今後も学習面でも生かせるものと考えられる。 ・三修と四修で活動日程は大きく異なるが、他者への関心や配慮を持ち続けることで、自身の生活、学習、進路活動を、より計画的・主体的に取り組む契機にしたい。 	<p>A</p>

令和7年度

3年部

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<p>1 基本的な生活習慣を確立し、自律した学校生活を送らせる。</p> <p>2 集団の中で豊かな人間性と環境適応力を身に付けさせる。</p> <p>3 働学一体の実現に向け、努力する姿勢と公民的資質、勤労観を身に付けさせる。</p> <p>-----</p> <p><手立て></p> <p>1 「定時の心得」やクラスのルールを徹底するとともに、面談や電話連絡などにより、生徒保護者との連絡を密にする。</p> <p>2 体験的活動や修学旅行を通してクラスの団結力を高める。</p> <p>3 キャリアパスポートや進路情報を用いて将来を見通し、進路を決定するとともに、4修制の生徒にはアルバイトや資格取得等を奨励する。</p>	P	
実施状況・達成状況	<p>1 体調不良による欠席や遅刻が多かったり、集中力に欠けることが見られたりすることがあり、保護者と連絡しながら改善を図った。</p> <p>2 3年生になり、成長した部分が多いが、肝心なところで個人で行動したりする点も見られる。</p> <p>3 卒業する生徒の進路は全員決定したが、3年生に進級しても、進路に関する考えや、自己実現の意識が薄く、決定には難儀した。</p>	D	
成果と課題	<p>緩やかで、生活面や学習面、集団生活など改善されつつあるが、急に登校できなくなるなど、3年生に進級しても、気を抜けない状態が続いている。家庭と連絡をとりながら取り組んできたが、改善できていない部分もある。</p> <p>ただし、継続して連携しながら少しでも良い方向に向かっていけるようにしていくしかない。</p>	評価	C
次年度への提言	<p>4修を選択した3名の生徒について、学校生活の充実と進路の決定が次年度目標となるが、それぞれが独特の個性をもち、またこれまでの欠席状況などを考慮すると、改善しなければならない点もあり、一つ一つ確実に進めていきたい。</p>	B (A~Dで)	A

令和7年度

4年部

本荘高等学校定時制課程

重点 目 標	1 積極的に学校行事や縦割り活動に取り組み、有意義な学校生活を送り豊かな人間性と環境適応力を身に付けさせる。 2 個人の具体的な進路目標達成に向けて日常のキャリア教育を充実させる。 ----- <手立て> 1 社会性を身に付けさせ、LHR、学校行事、縦割り活動を通して他者を思いやる気持ちを育てる。 2 生徒面談や三者面談を通して、進路目標の共通理解を図る。就職セミナーやオープンキャンパスなど情報提供に努め、参加を推奨していく。	P	
実 施 状 況 ・ 達 成 状 況	1 4年生として学校をリードしようとする意識を持たせることができた。学校行事、縦割り活動では自分達が楽しみながら下級生にも活躍できる場を積極的に作ってあげる姿が見られた。 2 6月中に三者面談を実施できた。夏季休業中には応募前職場見学や自衛隊インターンシップの積極的な参加により進路目標を早く設定することができた。	D	
成 果 と 課 題	1 男子2名だけの学級なので、1度互いの関係がこじれると学級の雰囲気が悪くなってしまう。 2 昨年度、3修制の同級生の進路活動をよく見ていて、自らの進路に対する意識が高かったが、公務員試験を志望する生徒には、合格発表が遅くなるリスクがあることを徹底して指導しておくべきだった。	評 価 B (A~Dで)	C
次 年 度 へ の 提 言	進路指導部との連携して、夏季休業中の就職セミナー、面接練習や進学補習を充実させることが、進路目標早期達成につながる。3年後半の保護者面談週間と4年6月の三者面談でしっかり道筋を本人、保護者に示してあげることが必要だと感じた。	A	

令和7年度

国語科

本荘高等学校定時制課程

<p>今年度重点目標</p>	<p>1 社会で必要とされる基礎的な漢字・語彙力の定着を図る。 2 言語活動を充実させ、文章読解力・自己表現力を向上させる。 3 新聞ワークシート等を用い、様々な視点から物事を考えさせ客観的な意見をもたせる。</p> <p>----- <手立て></p> <p>1 授業において国語辞典、漢和辞典、タブレット端末を積極的に活用させる。授業内容の振り返りで目標の定着を確認する。 2 話し合いや読解の成果を、単語ではなく一定量の文章として発表する機会を設け、表現力を付けキャリア教育につなげる。 3 新聞コラムや最新の時事を授業で取り扱い関心をもたせる。</p>	<p>P</p>	
<p>実施状況・達成状況</p>	<p>1 国語辞典、漢和辞典の使い方や漢字の書き順の徹底など意識して授業した。</p> <p>2 自分の意見を意見文としてまとめたり、レポート作成したりして授業中に発問してその場で答えさせる意外にも様々な発表する機会を設けた。</p> <p>3 読売新聞ワークシートや新聞投稿文の読み比べなど国内外の時事問題について考える機会を作った。</p>	<p>D</p>	
<p>成果と課題</p>	<p>1 小中学校の積み重ねがない生徒が多く、見たことのない漢字を書く生徒が多い。学び直しとして一所懸命に頑張る生徒が多いが一部諦めている生徒の見られる。</p> <p>2 文章で伝えられず単語だけで答えてしまう生徒がやはり多い。そのつど、言い直しをさせて徹底している。</p> <p>3 興味の幅が少ないため、なるべくさまざまな新聞記事の読み取りに挑戦させている。また、それぞれ立場があることを意識して批判的な読みを指導している。</p>	<p>評価</p> <p>B (A~Dで)</p>	<p>C</p>
<p>次年度への提言</p>	<p>基礎的な学び直しを継続し、正しい日本語の使い方を意識させたい。また、今後も時事問題の読み取りを各科目で継続し、自分の小さな世界だけではない世界や社会問題に目を向けていけるようにしたい。</p>	<p>A</p>	

令和7年度

地歴・公民科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<ol style="list-style-type: none">1 地理的な位置関係や歴史的な因果関係等、基礎的・基本的な学力の定着を図る。2 基本的な学習事項を基にして自分の考えを表現することができるようにする。3 <u>現代の社会情勢に目を向け、物事を幅広く考える力を身に付けさせる。</u> <p><手立て></p> <ol style="list-style-type: none">1 ICT機器を積極的に活用し、地理に限らず地図帳を活用させる。2 発表や話し合い活動等、言語活動を中心とした学びの場をつくる。3 就職・進学試験も視野に入れ、時事問題を取り上げる。	P	
実施状況・達成状況	<ol style="list-style-type: none">1 地名が出てきたときに場所を確認したり、歴史の流れを復習したりした。2 基本事項を確認した上で、発表や話し合い活動を行った。学習したことを活かして、生徒の自宅周辺のハザードマップを作成させた。3 時事的な話題を取り上げ、興味関心をもたせたり、就職・進学試験につなげたりした。	D	
成果と課題	<ol style="list-style-type: none">1 旅行に出かけるなどの社会経験が乏しく、秋田県や由利本荘のことを知らない生徒が多いが、授業内で場所や歴史について取り上げることで、少しずつ理解や関心が高まっていると感じられた。2 発表は全員にさせているが、自分から発言する生徒は固定されてしまっている状態である。3 時事的な話題に関心を示さない生徒もおり、工夫が必要である。	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	<ol style="list-style-type: none">1 取り組みの方向性は間違っていないと思われるので、地道に続けたい。2 少人数のためクラスによって、かなり雰囲気異なるので、クラスの実態に合わせた授業展開を一層工夫する必要がある。3 時事的な内容について、生徒の実態に合わせたものを少しずつ取り入れていくなどの工夫が必要かと思われる。できるだけ生徒の生活に近い内容を題材に取り入れたい。	A	

令和7年度

数学科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<p>1 数学的な思考力を培う 2 基礎的な計算力の定着を図る 3 授業において望ましい学習態度を育む</p> <p>----- <手立て> 1 文章題等から複数の情報を読み取り整理し、問題解決に導く力を身につけさせる。日常生活から題材を取って数学的思考の重要性を実感させる。 2 小学校以降の基礎的な計算問題を日々の課題や長期休業中の課題として与え指導する。 3 生徒が集中できる、学習に望ましい授業作りに努める。</p>	P
実施状況・達成状況	<p>1 割合や速度などの文章題を授業で扱い、複数の情報を読み取り、整理する問題を出題した。また、教科書を用いた授業でも日常生活と関連づけた解説を意識して進行した。</p> <p>2 長期休業中は基礎的な計算問題の課題を出し、授業中でも解答中の計算が簡潔になる方法などを指導した。</p> <p>3 これまでの内容との繋がりやその時間の目標、内容を明確に示して生徒が授業に集中しやすいように進行した。</p>	D
成果と課題	<p>1 問題文から得られる値を公式に適切に当てはめて計算するまではできているが、応用的な内容になるとできないケースが多い。 2 全体として授業で扱う基本的な計算力はついている。一方で一部生徒は現在も正負の混ざった計算が苦手な様子で、個別の支援が必要である。 3 演習中はまず自分で考え、解けなくとも他の生徒に聞きにくいなど学習に集中する姿勢が見られた。図形問題の解説で電子黒板のツールを使って図を描いているが、時間がかかり生徒の集中を切らしてしまう間を作ってしまった。</p>	評価 C B (A~Dで)
次年度への提言	<ul style="list-style-type: none">・授業の始めに復習として基礎問題を数問解く時間を設ける。・差の大小はあるが、どのクラスも学力の個人差があるため、早く問題を解き終わった生徒のために難易度の高い問題を用意しておく。・授業から日が経つと試験範囲の内容でも丸々記憶から抜けてしまう生徒がいるため定着を図る工夫が必要である。	A

令和7年度

理科

本荘高等学校定時制課程

<p>今年度重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 身のまわりの事象への興味・関心と、科学への見識を深めさせる。 2 物事を科学的に捉え、理解する姿勢の定着を図らせる。 3 自らの思考を整理し、表現する習慣を身に付けさせる。 <p>-----</p> <p><手立て></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日常的な科学的事象に気付かせ、観察や実験、演示を結びつける。小テスト等を通し、基本的な知識や技能の定着を図る。 2 考えを整理しまとめる時間や生徒間での意見交換の場を設け、他者との考えの比較を通して、学びを深めさせる。 3 ペアワーク、グループワークを通し、表現する機会を与える。ICT機器を活用し、情報収集やレポート作成、発表などを行う。 	<p>P</p>	
<p>実施状況・達成状況</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 導入に身の回りの事象や話題を提示し、知識や思考の共有を図った。「科学と人間生活」において事象の演示や体験を、「地学基礎」において資料の観察を実施したが、生徒主体の実験は行えなかった。 2 自発的に発言したり、積極的に協議する学年がある一方、思考を促し発言を引き出そうとし、待つ時間が長引く学年もあった。 3 ペアやグループによる作業や討議、教え合い、意見集約による発表の機会を設けた。また、いくつかの科目で、Chromebookを活用しての調べ学習を行った。 	<p>D</p>	
<p>成果と課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 学習内容に関する演示や、身の回りの事象に関連する話題の提示することで、学習課題や目標を意識させられた。 2 協議させることで、指導者からの問いかけに対して反応が乏しく理解度が測りにくい集団でも、生徒間での意見交換や作業では主体的に活動する者が多い。 3 ひとりで考えをまとめられない生徒でも、ペアやグループの中で、思考し、発言や質問するきっかけとなった。Chromebookの活用により、資料の不足やこの地域に関する情報を補うことができた。 	<p>評価</p> <p>B (A~Dで)</p>	<p>C</p>
<p>次年度への提言</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年によっては理数系科目に対して苦手意識をもつ者が多いが、課題意識を前向きに捉える様子があり、引き続き、身近な事象から生徒の興味・関心や実態に応じて教材を精選し、学習意欲の醸成を図りたい。 ・ 時間を割くことになるが、ペア・グループによる活動が効果的な場面が多く、意見をまとめたり発表する場を増やしたい。 ・ 生物や地学の領域の全般と物理と化学の領域のうち日常生活に関わる部分等、身の回りの具体的な事象を扱う教材において、ねらいを明確にしてICTを利用した情報収集の機会を増やしていく。 	<p>A</p>	

令和7年度

保健体育科

本荘高等学校定時制課程

<p>今年度重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 楽しみながら運動経験を積み重ね、自己の適性に応じてスポーツとの多様な関わり方を見いだすことができるよう指導の充実を図る。 2 実生活における心身の健康を保持増進する態度を育む。 3 健康・安全に留意し、生涯にわたって運動に親しむ態度を育む。 <p><手立て></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 得手不得手、障害の有無にかかわらず、楽しむ方法を学び、尊重し合い、認め合いながら、協力して活動する展開を取り入れる。 2 実生活と結びつけた心身の健康課題を提示し、解決に必要な情報を適切に選択・収集・活用する活動を取り入れる。 3 事故や怪我を未然に防ぐために必要なことを整理させ、体育と保健を関連付けて指導を行う。 	<p>P</p>	
<p>実施状況・達成状況</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の運動習慣や能力を把握しながら、基礎的な技能の習得を重視して授業を進めた。生徒同士での教え合いの場面設定や声掛けを都度行った。 2 日常生活での生かし方をペアやグループで共有する場面を設定し、客観的な意見を取り入れながら、自身の健康課題への考えを深めることができた。 3 各学期や種目の切替の時に、事故や怪我予防や健康維持の大切さを説明した。 	<p>D</p>	
<p>成果と課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 ほとんどの生徒に技能の成長が見られた。体育の出席状況も好転し、意欲的に参加する生徒が増えた。学年が上がるにつれてレベルの高い技能やチームプレーを積極的に挑戦する姿勢がみえた。 2 情報収集と意見共有の時間を重視し、一方的な情報の伝達にならずより活発な授業を行うことができた。 3 怪我や健康についての理解が深まり、自ら考えて準備運動や補助運動を行う生徒が増えた。自己の体力を把握できていない一部の生徒もいるため、自己理解が課題だといえる。 	<p>評価</p>	<p>C</p>
<p>次年度への提言</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 運動やスポーツの楽しみや喜び、心地よさを味わうことができる活動を今まで以上に工夫する。 2 ライフスタイルに応じた運動やスポーツの取り入れ方を考えさせる。 3 自ら考えて準備運動や補助運動を実践できるようにする。 	<p>B (A~Dで)</p>	<p>A</p>

令和7年度

芸術科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<p>1 筆やペンの持ち方、整った文字の書き方をそれぞれ身に付ける。 2 日常生活に用いられる実用的な書を練習する。 3 表現を工夫し、書の創作と鑑賞を楽しむ。</p> <p>----- <手立て> 1 基礎・基本を重視した反復練習から、正しい字の書き方を習得する。 2 キャリア教育の一環として、履歴書や礼状等の実用的な書を練習する。 3 表現の楽しさや完成の喜びを味わうことができる教材を作成し、鑑賞することで、自己有用感や自己肯定感を養う。</p>	P	
実施状況・達成状況	<p>1 1年生は主に平仮名、2年生は漢字について、手本となる動画を視聴し、繰り返し書写することによって正しい字の書き方の習得をめざした。</p> <p>2 担任宛に暑中見舞いや年賀状を作成した。2年生は芳名帳や金封等、「生活の中の書」に取り組んだ。</p> <p>3 篆刻を通してデザインを考える楽しさを知り、クラスメートの作品を鑑賞することにより、各自の頑張りを認め合えるようになった。</p>	D	
成果と課題	<p>1 週1コマしかないため、その時間に習得した書き方を次の授業では忘れてしまう生徒が多かった。</p> <p>2 金封や写経用紙、ハガキなどできるだけ実物を用意した。手書きする習慣がほとんどない世代なので戸惑いも見られたが、最後まで丁寧に取り組むことができた</p> <p>3 篆刻に対しては多くの生徒が興味・関心をもって取り組み、オリジナルの作品を完成することができた。</p>	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	<p>日常生活に用いられる実用的な書面については、卒業後の社会生活も踏まえた題材を用意し、できるだけ多く体験させたい。</p> <p>臨書に取り組む時間が少なかったなので、増やしていきたい。</p>	A	

令和7年度

英語科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<ol style="list-style-type: none">1 基礎・基本の定着を図る。2 コミュニケーション活動を充実させる。3 身近なことについて話せる英語を増やす。 <p>-----</p> <p><手立て></p> <ol style="list-style-type: none">1 電子黒板をフラッシュカード代わりに使い、ワークブックやプリントなど様々な方法で反復練習を行う。2 カードを使った作文ゲームや単語合わせゲームなど、ペアワークやグループワークで楽しく学べる工夫をする。3 「定時制英語会話」の練習を継続して行い、パフォーマンステストを年5回実施する。	P	
実施状況・達成状況	<ol style="list-style-type: none">1 ワークブック、プリント、電子黒板など、様々な方法で反復練習を行った。2 手作りのカード合わせゲームや作文ゲームなど楽しめる活動を工夫し、ペアワークやグループワークを頻繁に行った。3 「定時制英語会話」の練習を授業最初の約5分で継続して行った。パフォーマンステストは定期考査のたびに、年5回実施することができた。	D	
成果と課題	<ol style="list-style-type: none">1 英語が苦手な生徒も理解できるように、説明はシンプルに、練習は十分に行った。授業アンケートの結果を見ると、「わかりやすい」という声が多かった。2 手作りのカード合わせゲームや作文ゲームは、準備に時間がかかるがおおむね好評で、楽しみながら学んでいた。一方で、学んだことをアウトプットする段階になると、まだまだ苦手な生徒が多い。3 英語会話の練習は継続して実施していて、決まった質問には自信をもって答えられる。しかし、表現や内容を少し変えただけで話せなくなる生徒もおり、応用力の養成が課題である。	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	<ul style="list-style-type: none">・「定時制英語会話」を継続する。・少人数での効果的なコミュニケーション活動について研究する。	A	

令和7年度

家庭科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<p>1 学んだ知識及び技能を、生活の中で活用できるような題材・教材を開発する。</p> <p>2 授業で学ぶ知識や技能が、自分の生活と深く結びついていることを実感させる。</p> <hr/> <p><手立て></p> <p>1 主体性を引き出す教材を精選し、指導法を工夫する。</p> <p>2 身近な題材を設定する。</p>	P	
実施状況・達成状況	<p>1 賃貸借物件検索体験・自然災害による避難時の服装の検討・調理実習・献立作成実習・家計簿アプリ検索・悪質商法ロールプレイ・新生児人形だっこ体験等、体験的・実践的な授業実践を効果的に取り入れることができた。</p> <p>2 体験的・実践的学習後や、小単元終了後には必ず自己評価させた。授業で学んだ知識や技能が現在および将来の生活でどのように活かすか言語化させるようにした。</p>	D	
成果と課題	<p>指導者と生徒の対話や、生徒同士のグループワークによる言語活動により、授業内容と自身の現在及び将来の生活が深く結びついていることを実感させることができた。</p> <p>すべての単元で、現在の自分や家族は今後成長・発達してライフステージが変化していくこと、それに伴いライフステージごとの生活の特徴や発達課題も変化していくことを意識させるようにした。</p> <p>学習後の振り返り等はGoogle Classroomを活用して提出させた。欠席に伴い未提出の生徒の評価方法が今後の検討課題である。</p>	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	定時制の生徒特有のライフスタイルや物事の見方・考え方等にも配慮した題材を工夫したい。	A	

令和7年度

情報科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<p>1 情報技術の活用方法について理解を深める。 2 問題解決のために情報と情報技術を適切に活用する力を養う。 3 情報技術の利用者として情報社会に主体的に参画する態度を養う。</p> <p>----- <手立て> 1 パソコンやスマートフォンなどそれぞれの特性と、ネットワークについての理解を深める。 2 アルゴリズム的思考を身につけるためプログラミングを学習する。 3 情報モラルやセキュリティを学習し、情報社会へ関わる態度を身に付ける。</p>	P	
実施状況・達成状況	<p>・取り組むべき教材、内容は多岐にわたって存在しているが、生徒の実情を踏まえると、基本的な内容を身に着けることが重要である。中でも基本的なキーボード操作が、ある程度の技術が必要で、できない場合、作業やレポート作成に時間がかかり、思うように進めることができない。 ただし、無理に進めるとすべてが中途半端になるため、ここでは無理せず確実に修得することが重要である。</p>	D	
成果と課題	<p>・昨年同様。授業時間を10分と35分に分けて、キーボード操作の習得と、学習に取り組む時間に分割して授業を組み立てている。これにより上級生になると、スムーズに実習をすすめることができている。今はあせらないで、継続していく。多少の遅れは、卒業までに履修する情報に関する関連科目を通して、確実に知識や技術の習得ができるようにする。</p>	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	<p>・本来、求める技術レベルへ達することを目標に、3年間または4年間のスパンで、かつ、情報科目だけでなく、商業、キャリアなどの教科と連携しながら、あせらないで、継続していき、生徒の技術や知識に関する目標達成を目指す。比較的この学年は長期欠席がないので、予測を立てやすいし、計画的にすすめることができている。</p>	A	

令和7年度

商業科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	1 ビジネスに関する基礎的な知識と教養を定着させる。 2 情報関連技術の活用など、幅広いコンピュータ操作を身に付けさせる。 ----- <手立て> 1 日常生活と結びつけ、具体的なイメージをもたせるようにする 2 オフィスソフトを活用した実習を行うとともに、タイピングソフトウェアの実習を通して基本的なキーボード操作技術を身に付けさせる。	P	
実施状況・達成状況	<ul style="list-style-type: none">・ビジネスマナーの内容はコミュニケーションの大切さを理解し、行動できる社会人を育成することを目指しており、ロールプレイを行ったり、動画などを活用し実際に行動できるような内容で実施した。・タイピング技術の習得は、実施時数の違いで、差が発生しているが、在学年間を通した計画で、3・4年次を経て挽回できる予定である。	D	
成果と課題	<ul style="list-style-type: none">・WEBページや動画等を活用しながら、授業を進めることができた。また、マナーについての実習を行い、活動を通して知識や技術を身につけることができた。・実際の場面で、状況に応じて行動できるかという面では、繰り返し実習した。条件設定をした中で実習したりするなどの応用的な時間は少ししか確保できなかった。	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	<ul style="list-style-type: none">・実習やロールプレイなどは、継続して実施するが、クラスの人数に応じて条件の変更も必要になると思われる。また欠席が多い生徒への対応についても、他の科目を参考にしながら、基本だけでなく、よりハイレベルな技術の習得を目指す。	A	

令和7年度

地域環境科

本荘高等学校定時制課程

<p>今年度重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 郷土の魅力や文化、歴史の豊かさについて関心をもたせる。 2 地域の自然環境と人との関わりについて、基礎的な知識を習得させる。 3 考えをまとめ、自分の言葉で相手に伝えられるようになる。 <p>-----</p> <p><手立て></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自分たちの住む地域の豊かさや魅力に気づくことができるように、タブレット等を用いて調べ学習を行い、多角的に考察させる。 2 地域の具体的な事例を体系的にまとめ、テーマを設定し伝えるようにする。 3 相手に伝わるような表現方法やまとめ方を意識させる。発表会を行う。 	<p>P</p>	
<p>実施状況・達成状況</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 タブレット等を用いて調べ学習を行った。郷土や自分の住む地域への理解を深めた。 2 多くのジャンルに触れられるようにテーマを設定した。テーマは郷土の変遷、世界遺産、祭り、方言、工芸品、ジオパークなど地域の具体的な事例を取り上げた。 3 学習したことをスライドにまとめてプレゼンテーションをしたり、由利本荘市の魅力を伝えるショート動画を作成させたりした。完成したコンテンツの発表会を年間で3回実施した。 	<p>D</p>	
<p>成果と課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 調べ学習を活かしたコンテンツ作成や、生徒同士の発表をとおして広く地域の魅力に触れることができた。その中で自然と、地域課題について考えるようになった。 2 身近な事柄を深く知ることで、地域のよさを再認識し、魅力として発信しようとする様子が見られた。 3 ショート動画の発表会の際はプレゼンテーションも行い、これまでの調べ学習の成果を発表した。各発表会ごとに相互評価をしたことで、回を重ねる毎によりよい表現を考えることができるようになった。 	<p>評価</p> <p>B (A~Dで)</p>	<p>C</p>
<p>次年度への提言</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源、地域人材の活用。ジオパークの出前授業などが実現できればより踏み込んだ学びに繋がるように思う。 ・もっと自然科学分野を取り上げたい。 ・調べ学習だけに陥りやすい科目。アウトプットの機会を引き続き設けていきたい。スライド作成や動画作成をしたことのない生徒も多かったため、作成上の指導が必要。その他、アポイントメントの取り方、情報モラルや情報リテラシーの事前指導も必須。 	<p>A</p>	

令和7年度

キャリア教育

本荘高等学校定時制課程

<p>今年度重点目標</p>	<p>1 職業や自分の将来、自己実現の道筋を考え、考えたことを表現できる力を育む。 2 自分の将来や未来の社会について真摯に向き合い、問題を解決しようとする態度を育てる。 3 社会生活に必要な一般常識（挨拶、マナー、金銭管理、生活管理等）を身に付けさせる。</p> <p>----- <手立て> 1 自己理解を深めさせ、将来について具体的に考えさせる。 2 キャリアプランを作成させ、将来の社会に向き合う心を育む。 3 就職・進学試験に関する問題集を利用したり、面接やロールプレイを行ったり、実践的な取組を行う。</p>	<p>P</p>	
<p>実施状況・達成状況</p>	<p>1 面談や振り返りシートを用いて自己理解を深め、将来について考え、行動することができた。 2 一般常識の修得や進路活動等を通して、社会に向かっていく心を育てることができた。 3 授業を中心とした学校生活を送る中で社会生活に必要な一般常識が身に付いてきているように感じる。</p>	<p>D</p>	
<p>成果と課題</p>	<p>1 2年生の0校履修者は1名断念してしまったが、他2名は学力が高く、意欲的に取り組んでいた。4年生の2名は進路活動に臨むにあたり、自己理解を深めたり、一般常識の修得に励んでいた。 2 2年生の0校時で情報活用と一般教養A、4年生でキャリア教育、一般教養Bと一般教養Cを履修しているが、3年で卒業する生徒が前者（情報活用と一般教養A）、4年で卒業する生徒が後者（他の3科目）ということで、偏りが感じられた。</p>	<p>評価 B (A~Dで)</p>	<p>C</p>
<p>次年度への提言</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程検討委員会との協力の下、学習内容や履修のバランスについては検討が必要と思われる。 ・担当者が5人おり、共通理解を深める機会を設定するべきかと思われた。 	<p>A</p>	